

学校から教科書を頂いたら
－徹底的に予習してしまおう－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：新学年になって学校から教科書を頂いたら、どうすればよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)「学校で新しい教科書を頂いたその瞬間から、徹底的に予習してしまおう」、これが私の考えです。

Q：えー、学校での授業が始まる前に、教科書を予習してもよいのですか。

A：誰に遠慮することなく、どんどん予習してください。1科目だけでもよいですから、ゴールデンウィークが終わる頃くらいまでに、教科書1冊を全部終わらせることをお勧めします。

Q：例えば、英語はどのように予習したらよいのですか。

A：(1)教科書の本文を、1課から大きな声を出して何回も読むことです。教科書の本文が入っているCDやMDを自分で購入して聴いたり発音記号を調べたりして「正確な発音」を知り、そのうえで大きな声で正確に発音しながら、何回も、何十回も、何百回も教科書の本文を読むこと。英語を見たら、声に出して読む習慣を身に付けることが、英語上達の第一歩です。

(2)意味のわからない単語や語句があったら、辞書を使って調べ、調べた内容を要領よくまとめて、単語帳に記録すること。「意味調べ」と「単語帳づくり」をお勧めします。

(3)新しい単語や語句の意味を調べ、単語帳に記録したら、「書き取り練習」も十分にすることが大切です。正確に発音しながら何十回も書き取り練習をして、「手が覚える」まで十分に練習すること。今までに習ったことのある単語や語句で、意味はわかっているけれども正確には書けないようなものも、十分に書き取り練習をすることです。

(4)よく読めるようになり、一つ一つの単語や語句の意味がわかり、それらが書けるようになっても、文章全体の意味がよくわからないこともありますね。新しい課に出てくる文法事項を教科書や参考書で調べることも、大切な予習です。文章全体がどのような意味なのかをつかむために、細かいところまで注意をしながら読み、一つ一つの文の意味をノートに書いてみましょう。

よくわからないところには、自分なりのわからない印(マーク)をつけておくこと。よくわからないところを予めはっきりさせて、問題意識を持って授業に臨むことが、予習の大切な目的でもあります。

(5)一つ一つの文の意味が大体わかったら、文章全体をブロック体か筆記体で正確に書き写すこと。正確にひたすら書き写すことです。教科書にあるようなよい文章を、正確にひたすら書き写すことも、大事な語学学習です。

(6)ここまでできたら、教科書に出てくる文章を全部暗唱し、丸暗記することです。教科書に載っている文章は一つ残らずスラスラ口をついて出てくるようにする、つまり暗唱してしまうこと。何も見ないですべて書けるまでにすること。どちらも正確にですよ。

つまり、CDやMDなどで正確な英語を聴くこと、発音記号などを調べることによって一つ一つの単語や語句が正確に発音できること、文章が正確に読めること、正確に書けること、何も見ないで正確に言えることが大切です。

Q：予習でそこまでやるのですか。

A：はい。(1)～(6)までを手を抜かずに徹底的に行ってから、強い問題意識を持って学校の授業に出てください。必ず、よい結果が得られます。

(7)これらに加えて、学校の教科書に沿ったCDやMDなどの視聴覚教材を、一度学校で学んだ部分や予習の済んだ部分だけでも、毎日のように・聴き流すこと・聴きながら発音すること(影を追うように発音するので「シャドウイング」といいます)・書き取り(ディクテーション)練習することなどをしながら、・反復再生することです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：英語と同じように他のすべての教科書についても、①声に出して正確に読む ②ノートに意味を調べる ③書き取り練習をする ④計算練習をするなどの「予習」を、誰に遠慮することなくどんどん積極的に、徹底的に行ってください。

よい成績を取るためには、好きな科目だけでもよいですから、徹底的に予習をすることです。頑張って、新学年のよいスタートを切ってください。

この予習の方法は、どのような分野の勉強にも活用できます。そして、一生涯使えるものです。開倫塾の塾生である間に、このような自分で学習する能力、つまり「自己学習能力」を身に付けて頂くことが開倫塾の教育目標です。自分のこととして、十分に参考になさってください。

*この英語学習法の内容は、斎藤兆史著「これが正しい！英語学習法」ちくまプリマー新書、2007年1月10日刊、P.78～P.111を参考にしました。皆様も、栃木県出身で東京大学助教授の斎藤先生の本を購入し、実行してください。

以上

－ 2007年2月18日記－